

## 宮古沖より採集されたハナメイワシ *Sagamichthys abei*について

藤田惣吉・西野耕一郎

(岩手県立宮古水産高等学校)

On *Sagamichthys abei* collected off Miyako, Iwate Pref., Japan

Soukiti HUZITA and Kōichiro NISHINO

(Miyako Fisheries High School, Iwate Pref.)

深海魚の一種ハナメイワシ *Sagamichthys abei* は阿部 (1957, p. 298) によれば我が国で一尾採集されているのみだという。\*

即ち 1909 年 4 月オーストンが相模灘ヨドミで採集したものに田中 (1910) はハナメイワシという新和名を与えセキトリイワシ科 (Alepocephalidae) の *Bathytroctes rostratus* GÜNTHER と同定して発表した。

しかしこれは PARR によって 1953 年 9 月にハナメイワシ科 (Searidae) の新属新種として発表しなおされた。

本種の特徴は肩部発光器 Shoulder organ といわれるものが肩部にあり更に腹部にも数個の細長い帶状の発光器をもつことである。

このハナメイワシが 1963 年 2 月 13 日岩手県宮古市閉伊崎沖から岩手県立宮古水産高等学校実習船、かがみ丸により一尾採集されたのでそれについて以下報告する。魚体の測定は西野が行い本文は藤田がとりまとめた。

報告に先立ちこの発表を許可された佐々木千秋宮古水産高等学校長及び有益なる指示を与えて下さった岡田弥一郎博士に深甚なる感謝の意を表する。

漁場は宮古市閉伊崎の東南東、水深 250 m で底質は細砂であり当日の主な魚獲物はタラ、スケトウ、ヒゲタラ等 575.6 kg であった (宮古水産高校, 1963)。

採集されたハナメイワシは、体は柔軟で各鰭は、脆く弱く写真にもみられる如く特に尾鰭は破損しやすい。



Fig. 1. *Sagamichthys abei*, from off Miyako, Iwate Pref., Japan.

\* 追記を見よ。

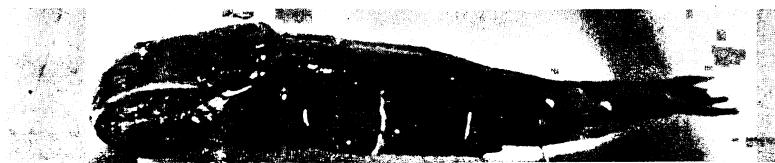


Fig. 2. The luminous organs on the abdominal region of *Sagamichthys aberi*.

体は黒紫色で上顎の縫合部、上顎主骨、下顎の先端は灰白色で眼窩の上方及び眼後部附近は淡青色である。又尾鰭を除いた各鰭の基底部も淡青色を帶びている。

体表は円鱗でおよぶわれ側線孔はきわめて顯著である。鱗は剝離しやすく側線のやや下方のものを検鏡したのによると、その環線は同心円状をなさず略々中央部で切れているのが認められた。

各鰭の鰭条は背鰭 14 軟条。胸鰭 10 軟条。腹鰭 8 軟条。臀鰭 12 軟条である。

背鰭は尾鰭を含めない体の後部から背鰭基底長の凡そ 2.5 倍の位置から始まり臀鰭の最後から数えた第 5 軟条基底上にて終る。

胸鰭は主鰓蓋骨の直後から始まりその基底は斜め下方に向く。

腹鰭は体長の略々 1/2 の部位より始まり体側下方に位置しその先端は背鰭始部よりやや前方にて終る。

臀鰭は背鰭の第 7 軟条下に始まる。背鰭基底長は臀鰭基底長より僅かに長い。

標準体長は 252 mm で頭長の 3.76 倍、体高の 4.67 倍、吻端から背鰭始部までの 1.57 倍、下顎先端から臀鰭始部までの 1.44 倍、下顎先端から腹鰭始部までの 1.94 倍である。

頭長は吻長の 6.7 倍、眼径の 6.1 倍、両眼間隔の 3.72 倍、上顎長の 2.16 倍、尾柄長の 1.45 倍、尾柄高の 3.72 倍、背鰭基底長の 1.86 倍、臀鰭基底長の 1.91 倍に当る。

体は延長側扁し最も広い部位の体幅は主鰓蓋骨の起部で体高の凡そ 1/2 に当る。

頭部は側扁し頭部外廓は眼前部において僅かに突出している。吻端も僅かに突出し吻部は短かくほぼ眼径に等しい。

口を閉じると下顎は上顎に深く合し両顎は極めて尖鋭な長さ 1~2 mm 程度の微小歯を一列に有しその先端は口内に彎曲している。しかし、上顎先端のものはすこぶる微小で鋭く彎曲している。又上顎の口蓋骨の前端左右に一ヶ所づつ小突起を有しその上部に 2~3 本の細くて鋭い微小歯をほぼ放射状に具えている。口蓋骨にも粗小な歯を有し舌の先端は上方に折れ曲っている。

口は大きく斜位で上顎主骨は眼窩より略々眼径長だけ後方に延びて終る。

眼径は稍々大きく頭部眼後長の凡そ 1/4 に等しい。両眼間隔は幅広く凡そ眼径の 2 倍である。

眼窩の下縁には薄い弧状の突出した硬い骨質から成る縁取りが 2 個存在する。

主鰓蓋骨は非常に薄く且つ柔軟で容易に折り曲げることが出来る程であり概ね凸形をしている。鰓孔は甚だ幅広く開きその前方は眼の中央下にまで達する。

鰓は 4 対で鰓耙は笹葉状を呈しその内面に細長い微小棘を疎生する。鰓葉は黒色に近く第一鰓弓における鰓耙数は 8+19=27 である。

前述した肩部発光器は 9 mm×7 mm の橢円形で淡青色を呈している。

腹面の発光器は下顎前端に透明な小さいものが 1 個、次に左右の胸鰭始部を結ぶ直線より極めて僅か前方に左右に稍々伸びた顕著なものが 1 個 (8 mm)、その後方に更に左右に長く伸びた

最も長く幅広いのが1個(18.5 mm), 腹鰭の少し前方に左右に伸びたものが1個(12 mm), 更にはるか後方即ち尾鰭の腹面の小鰭条の始まる前部に極めて僅か左右に伸びた小さいものが1個(4 mm)ある。更に腹鰭の斜め上方に極めて小さいものが1個(3 mm), 臀鰭の斜め上方に1個(5 mm), 臀鰭の最後から数えた第4軟条基底直上に1個(3.5 mm)ある。又鰓条骨や胸鰭の下部軟条, 腹鰭の下部軟条にも小さい発光器をもっている。

### 引　用　文　獻

- 阿部宗明, 1957. 図説有用魚類千種. 続篇.  
 岩手県立宮古水産高等学校, 1963. 昭和37年度中型機船底曳網漁業試験実習操業報告書. とう写版, 13頁.  
 田中茂穂, 1910. 二種の深海魚に就いて。動物学雑誌 22卷, pp. 251-256.  
 PARR, A. E. 1953. A new genus of Searsidae from Japan. Amer. Mus. Novit., No. 1628, pp. 1-7.

### Résumé

A record of *Sagamichthys abei* PARR of the family Searsidae is given. This species has been already recorded by TANAKA (1910) from Sagami Bay. The specimen was caught by bottom trawl on February 13, 1963, from a depth of 250 m. off the coast of Miyako, Iwate Pref. Its standard length is 252 mm.

追記: ABE, T. (1963)\*によればハナメイワシは前述した1909年4月の採集のほか、相模湾真鶴岬沖にて1959年に1尾、1963年4月に2尾採集されたという。そしてこの様な稀種の深海性魚類の出現は異状海況のためであらうと述べている。

\* ABE, T. 1963. Unusual Occurrences of several species of boreal, amphipacific and bathypelagic fishes in Sagami Bay and adjoining waters during the first half of 1963, a cold water season in southern Japan. Bull. Tokai Reg. Fisher. Res. Lab. No. 37.